

# 一人ひとりを大切にする具体的な保育

## 4

### 衣類の着脱の手助け

乳幼児にとって具体的に手助けが必要な場面に、衣類の着脱があります。どの園でも考えられる場面は、室内外への出入りの時があります。

以前、私の園では、この出入りはただ移動をする場面で、室内での活動と外での遊びの移動をするだけであり、「この場面を大事にする」といった意識はありませんでした。したがって、嵐のように集団で移動するので、靴下や帽子も作業のように着脱したり、自分一人で靴を履いた子は左右反対に履いていたり、また、入室の時は手洗いを作業のように洗わせていたりしていました。

ユリア  
愛知県碧南市・へきなん保育園園長

#### 1 室内外への出入りの時こそ

この部分は、子どもにとって手助けが必要などころであり、時間をしっかりとって丁寧に接するところだと、価値観を変えることになりました。

何人ずつ出入りするのかというと、食事と同じで、何人なら必要な手助けができるのか、ということから決まってきました。私の園の場合は、0歳なら1人ずつです。1歳、2歳は2人ぐらいです。ただ、見ていると、1歳でも1人のほうがよいのではないかと思える時があります。

こうして子どもの移動に大人が1人ついてしまうと、その他の子どもたちはどうし



●小さな秋のテーブルフラワー

ているのでしょうか。もちろん遊んでいます。私の園では、乳児クラスも担任はたいいてい2人なので室内の遊びを見る人、外の遊びを見る人、移動する人の3人がいます。1人手が足りないことになりました。そこで私は、この場面をぜひ丁寧に保育してほしいけれど、どうしたらできるだろうかと保育士に投げかけてみました。この時期、産休中の人が重なり、人手はギリギリの状態でした。そんな中、「隣のクラスと連携してやってみます」と答えてくれました。

実践してみると、だいたい部屋から出るのも入るのも30分、40分ぐらい時間がかかっているようです。

早く外に出た子から室内に入るので、子どもたちの遊びの時間は、みんな同じぐらい確保されます。そうして手洗い、帽子や靴下、衣類の着脱など、それぞれのペースに合わせて大人が寄り添っています。トイレの手助けと同じで、靴下を先だけ手伝ってあげればあとは自分でできるとか、人それぞれの発達に応じて声を掛けたり、待ちたり、手助けしたりします。この、それぞれの「ペースに合わせて」というところで、保育士は子どもの前ではなく、後ろを歩いている姿があります。

基本的には、毎日同じ順番で移動します。その順番は食事の順番と同じにしています。

●食事と寝ているところ  
食事が終わると同時に、みんな寝ている状態です。



他の園で、子どもたちがもっと外で遊びたい、早く中に入りたい、子どもたちが思うように動いてくれない、などという話を聞きます。そうした場合考えられることは、子どもたちが十分遊べる時間があつたかどうか、室外での遊びの環境はどうか、また室内に入っても遊びの環境が保障されているだろうか、子どもたちの「もっと」「早く」…の思いを、いろいろ考えることが必要だと思えます。最近では、園庭がある、ないなど様々な状況がありますが、子どもの育ちのどこを支え、何を大事にしたいか

を考えて、それぞれの置かれた状況において工夫することは楽しいことです。

## 2 衣服の着脱は汚れた時のみ

私の園では、衣服の着脱は汚れた時のみに行っています。食事で汚れることはほとんどないので、さほど頻繁にはしません。お昼寝の時もパジャマなどに着替えなくて、汚れていなければそのまま入眠してきます。家で昼寝する時、皆さんはパジャマに着替えていますか？

園によっては外から戻ったら着替え、昼寝の前後にも着替えている園もあるようですが、どういう理由でしているのでしょうか。

昔、フランスやハンガリーなど、保育園自体の成り立ちが子どもの衛生管理から始まっている国もあり、そうした国では屋外のバイ菌などを持ち込まないために、子どもたちは室内に入る時、室内着に着替え、保護者の中には入れないといった状況もあつたようですが、今は衛生環境が変わり、頻繁に着替えることもないようです。

今の日本で、衛生管理に気をつけるというところで、日に何度も着替えているようなら、本当に必要かどうか、少し見直してもよいのではないかと思います。保護者にとっては、汚れていないのに1日に何枚も洗濯ものが増えることは負担になるかもしれません。

また、昼寝の前に着替えている園の方に聞いた話ですが、衣服の着脱でボタン掛けの練習になるからといわれてました。しかし、その時の子どもの状況はどうでしょうか。おなかもいっぱいになり、眠たい状態ではないでしょうか。ボタンの練習とか指先の練習なら、遊びの中で体験できるように工夫してはどうでしょうか。

小さな子については、保育士が着替えさせることになると思います。すると、丁寧な食事の介助が物理的に難しくなり、また子どもの眠気も覚ましたうえで、寝かしつけるのに長い時間、トントントンする。状況をつくり出しているかもしれません。

## 3 子育て支援にもつながること

話を少し変えます。玄関先で靴を履いている子に、「早くしなさい」といつている親御さんはいませんか。私の園でも耳にします。「早くしなさい」といわれても、子どもは一生懸命履いているけど、早く履けないですよ。もし、いつもそういつている親御さんがいたら、なぜいつもそういう状況になるのか、少し大人の行動を考えるとよいと思います。保護者に、「子どもにとっては時間がかかるというのが実情ですから」などと伝えることは、子育て支援にもつながるかもしれません。

●外から室内に入る時の靴下と帽子をとるところ

全員で移動していた時には、靴下を、誰がどこまで自分一人ではけるかわからなかったけれど、一人ひとり丁寧に見るようになって、どこまでできるのか、よく見えるようになりました。



子どもはいわれのないことで怒られず済むし、親もそついうものだとわかっていれば、自分が早めに支度をすればよいことに気づき、イライラせずにすむかもしれません。保育士の専門性というほどのことでもないのですが、保育園での実践を保護者に伝えることで、育児の手助けになるかもしれないですね。ここでも上から教えるといったスタンスではなく、気づきを得ていただけるといいな、といったスタンスで伝えます。

様々なことを、参考になればと思って述

べていますが、ここで述べたことがすべてではありません。それぞれの園で園舎等の建物の構造も違うし、それぞれの地域の気候によっても保育の流れが違ったりします。それぞれの場所で工夫してください。

#### 4 待ちすぎている場合は

「保育士は、子どもの後を歩く」と前述しましたが、水遊びの後の入室の場面で、乳児が裸でタオルを巻いて移動する時などは、保育士が抱っこして入室することもあります。

「丁寧にしたら、とつても時間がかかってしまった」という話を聞く時があります。そうした場合には、たいていは工夫の必要があるところです。どうしてそつなつたのかを考えてみてください。待ちすぎている場合もあります。

子ども中心でそのペースを守るといふことは、子どものいうなりになることは違います。社会性を身につけることも必要ですし、気持ちの折り合いをつけることも必要です。また、小さくても、していることの意味を伝えることも必要です。子どものペースを守りながら伝えたいことがよいことは、理由も一緒に、その都度伝えていきます。時には大人の都合がある場合もあります。それはそれで、折り合いをつけて、行

う必要があります。すると、本当にその時々を考えて行動することになります。保育士も日々工夫し、創造的に仕事をするといいことです。

#### 5 乳児の行事への参加について

この保育に取り組んでから、乳児の行事への参加について考えるようになりました。それぞれの園ごとに考えが思うと思いますが、私の園の場合、以前、運動会には1歳児から参加していました。当日まで毎日、1・2歳児合同で、部屋で簡単なリズム遊びを踊り、それを遊戯として披露していました。それと、親子で参加してお菓子ももらえる競技をしていました。

しかし、遊戯については、この年齢の子が大勢の人の前で、親から離れて演技することには無理が有ると考え、2年かけて話し合い、やめました。1年目は1歳児だけやめ、次の年は2歳児もやめました。

保護者に見れば、なんでもできれば可愛いので喜ばれるかもしれませんが、子どもにとってはどうかということを大事にした結果のことです。もちろん、リズムに乗って踊ることが好きな子もいるので、日常の保育の中で踊ればよいと思います。なお、親子競技については、引き続き行っています。

- ① 外に出る時に座って靴下をはくところ（1歳児）
- ② 外から入室するところ（1歳児が2階に移動しているところ）



①

発表会についても、以前は2歳児から参加していて、無理のないようにとは考えながら、かなりしっかり演技等をやらせていました。しかし、このことも保護者の方は喜ぶかもしれませんが、子どもにとっては無理があるとみんな考えてやめました。園全体としては、運動会、発表会、作品展といった行事を普通に行っています。作品展についても、以前は2歳から共同製作と個人製作を発表してきましたが、どうしても保育士主導の共同作業になりがちで、やはり無理にすることはないということに

なり、今は、2歳児の参加はしていません。子どもたちは本当に素晴らしくて、させれば何でもしてくれます。しかし、そのことが誰の思いなのか、誰のためなのかを考えることは必要なことだと思えます。その分、日常の遊びを大切に、そのことにより、子どもの最大の発達を促すということをめざしています。

作品展などに参加しないと、遊びの中で、描画、なぐり描きなどが充分にできる環境がどうであったかとか、リズムを感じたり、身体を動かして楽しめる機会はどう準備し、実践したらよいのか、などに



②



●外から室内に入る時の、手洗いをしているところ（2歳児）

ついて考えていく必要があります。リズムや身体を動かして楽しむことに関しては、私の園ではわらべうたを取り入れています。遊びの中で、保育者は子ども一人ひとりに向け、拍を意識して、アカペラで歌っています。また、遊びの動きに合わせて歌ったりしています。わらべうたについては、また改めて述べたいと思います。